

No. 135

# 全 仏

5 / 43.

江戸川区逆井善通寺

モダン寺 (7)



里から寺へ

お寺さんの理想像(7)

語り手 哲学博士 和田聖公氏

財団法人 全日本仏教会

# 仏教徒の政治意識

藤野恒道

(読売新聞社編集局文化部)

七月に行なわれる第八回参議院通常選挙は、未曾有の激戦になるという下馬評が高い。地盤の固定化から新人進出の困難さが予想されるが、全国区では少数精鋭の競合いから、当確線は六十万票という驚異的な数字になろうと噂され、既に次回の立候補を断念した現議員さえある、と聞く。

参議院の選挙は既に前回にして、緑風会の解散と公明党の進出のうちに戦われ、参議院の政党化がマスコミに指摘、論評された。もし、この指摘が正しいとするならば、それは、大所、高所より衆議院の行過ぎをチェックする「良識の府」であった筈の参議院の地盤沈下を意味するものに他なるまい。

参議院のこの政党化―地盤沈下は、必然の現象として看過すべきことであるか、どうか。

いったい、仏教徒には無意識のうちにも政治を見下す風潮が強過ぎはしないか。日蓮は立正安国を提唱したが、禅、念仏には政治にかかわりなく個々が安心立命を得ることを肝要とした。その信仰の純粹さ、厳しさを疑うものではないが、民意の反映が可能な現代にあって、古来の姿勢を固執することは、政治に対して自ら背をそむけるものと評されてもやむを得ないだろう。

ここで、従来の仏教徒の政治に対する姿勢を振

返ってみると、仏教界のあるものは、政界における保守、革新の対立を、そのまま仏教界に持ちこむような傾向がみられたように思われる。

釈尊の思想が地上最高のものであるとしたならば、それは保守、革新のいずれの側に対しても、よなき指導原理として有効に作用し得る筈であって、保守、革新の両派が仏教界にそれぞれ橋頭堡を築き、仏教精神の大旗を掲げながら、互いに首尊権を争うということでは、釈尊に対するこれ以上の冒瀆はない、といわれても仕方がないだろう。今こそ私たちは釈尊の驥尾に付し、末梢的な党利党略に明暮れている「政治」の実態を直視して、警醒の一票を投じなければならない。

しかしながら、かくいえばとて、仏教徒の政治意識が一概に低調であるとは考えられない。八万寺院、二十万僧侶の大半が兼職しているといわれるが、教員・保護司・民生委員・福祉・保育等の事業に従事している人達は、みな「政治の貧困」を背身にしてみている筈である。この人達の政治意識は、それが保守派、あるいは革新支持であろうとも、決して低次のものとはいえないだろう。これらの人達の政治意識を結集して、それをいかに具体的に政治に反映させるかが問題である。

そこで、仏教精神による政治を実現するため、仏教界は、全教団と府県仏教会の組織力をフルに動員して、仏教関係立候補者の全員当選を期していただきたい。

仏教徒にとって安心立命が第一義であることはいうまでもないが、仏教精神による平和な社会を実現するため、従来以上に社会事業や福祉事業と、それに密接なかわりのある政治に、前向き

の姿勢で取組んで貰いたいし、場合によっては教団の壁も取りはらってほしい。また、府県仏教会は従来、花まつり、歳末義捐募金などに、各宗派が美しい協力をみせているのだから、さらに一歩を進めて末端の政治意識を汲みあげ、仏教関係の選良選出に一役を買って、体質改善をしていただきたい。

さらに、仏教関係議員各位にも、仏教関係議員の党派を超えた組織と、一致した協力を期待したい。

たとえば、全仏教関係議員団の名において、南北両ベトナムと東西両陣営に和平を提唱するとともに、戦禍になやむ難民のために食糧や医薬品を贈るなどということは、できなかったものだろうか。ベトナムの戦争は難民に対する同情によってデスカレートしたというより、アメリカのドル防衛の破綻によってようやく解決への曙光が見出された、といえるだろう。これはわが仏教徒が、わが仏教関係議員団が仏教精神を国際政治に投射すべき、絶好の機会ではなかったか。

国内の問題にしても、仏教関係議員団は、原爆症患者の救済や辺地の学校給食問題等については、党派を超えて協力し、あるいはそれぞれの所属の党を説いて、政治の谷間に喘ぐ業告の民に手をさしのべることが、できたのではないか。

仏教界の体質改善、あるいは仏教関係議員の結束等は、言うは易く実現はなかなか困難であるかも知れない。

しかし、参議員の地盤沈下を防ぐことのできる良識と全国的組織は、見渡したところわが仏教界だけにしか見出すことはできない。仏教界の勇断と努力を期待しなければならぬゆえである。

福岡の十道府県が選ばれた。第三年・第四年度にはのこり二十八県の調査が行なわれる。本年は岩手・福島・栃木・埼玉・福井・岐阜・和歌山・鳥取・山口・徳島・大分・佐賀・鹿児島各県の宗教法人が対象となっている。なお、調査は、大體、第一次調査では九月十月に調査表発送・回収が行なわれ、第二次調査が翌年の一月におこなわれるのが例となっているが、多少ずれることもある。

さて、各年度の調査対象法人数は、表1のとおりであるが、各年とも、第一次対象の抽出には、文部省宗務課が、各府県の宗教法人名簿（昭和四十二年度始めに全国完備）を利用して行ない昭和四十四年度（文部省が直接発送）を除いては府県の宗教法人事務主管課が調査表の発送回収そして県単位の集計の事務に当たっている。なお、第二次調査は、第一次の回収調査表の内容について報告をうけた文部省が、その内容を吟味して対象を選択する。第二次調査（詳細な事業内容の分析）は、数も限られてくるので、文部省が直接、発送・回収・集計に当る。また、集計とその内容分析の進み具合は、表2に示すとおりであるが、四十、四十一年両年度に関する限り、ほぼ集計と内容分析が済んだと考えられてよい。調査の峠はほぼ越えたということであろう。

また、調査表回収率は、表3にみられるとおりであるが、六十五パーセント（昭和四十年）、五十八パーセント（昭和四十一年）という回収率は表面は大変低くみえる。ところが、たとえば、神社神道約八万神社のうち、その約八十パーセントが兼務社であることでもわかるように、いわゆる兼務社寺や、実態のない団体からは報告の来る率が少ない。対象名簿によって調べたところ、何らかの活動を行なっている団体からの報告率はきわめて高く、単なる推算ではあるがそれはカッコ内の率となる。このいみでこの調査の精度は高いと、自信をもっていえると思う。

①調査対象抽出数（第一次）の、各宗教系統別比率は、「宗教年鑑」に報告されている各宗教団体法人数の実数の比率と合致しており、抽出がきわめて合理的かつ正確であったことがわかっていゝる。（例えば、全国十八万法人のうち神社神道八万が占める比率と、例年の調査対象抽出操作における各宗教系統別の中の神社の占める割合が、大體同じという意味）

②昭和四十・四十一兩年を通じて回答率においては、仏教（特に浄土系と禅系）とキリスト教（新教）が高く、兼務社寺の多い神社神道やその他の既成仏教では低くなっており、あるいみで、

特集

宗教法人の行なう

事業調査について

(二)

この回答率は各系統の布教熱心度をあらわしているようにみえる。

③「事業アリ」の回答でも右と同様なことが言え、結局、事業なっているもの、行なおうとしていたものは、何とかして一般大衆とふれあっていたという態度の団体であるという結論が出そうである。

④区市郡別の地域においては、社寺が伝統的に農山村に多いせいもあって、区市郡平等に事業が散在しているが、東京・大阪・兵庫の大都市においては、幼稚園・保育園などを中心にして、区部に片よりが見え、人口がむしろ大都市周辺に再移動している今日、今後問題が出てくると推察される。

⑤系統別（神社、教派神道、神道単立系、天台系、真言系、浄土系、禅系、日蓮系、奈良仏教系、その他仏教系、仏教単立系、キリスト教旧教、新教、キリスト教単立系、諸教系、諸教

伝統的、もしくは弱小団体で、社会変動にとり残された点が目立ち、事業も教会教師の個人的恩感によるものがほとんどであった。興味あるのは、信仰的にも教化一本でおし通している天理・金光両教に、社会変動と共に、むしろ教化の意味で事業をやるべきであるという意見が若手教師の間に目立って来た点である。それでもなお、教派神道のおくれが目についた。

事業の約六割以上が仏教系に集中しており、仏教の伝統的に重みが知れたのが、この調査である。とくに事業のバライティ（多様さ）の多さは仏教が一番で、この調査結果をみたキリスト教師が、キリスト教伝道の低調さを、知識教育偏向ときめつけると共に、仏教の庶民との密着ぶりを見直していた。とくに茶華書道塾、学習センターなどは、寺小屋の伝統ともいうべく、また寺族が寺を支えるいみもあって寺経営に参加している面もみられて、それが「消極的」ないみのものであるにせよ、現実には、ある程度教化の支えになっているように見られた。この点が、神社や教派神道には薄いようであった。

しかし同時に、幕藩時代からの寺の地域的片よりが、とくに都市にみられ、闇駐車場、小規模貸席・貸間・貸地などに問題が多いものも仏教で、それも教団の世話がゆき届かない寺院に問題の多いものが多かった。中には喫茶店、バー経営などがみられ、一応「別組織」にはなっているものの、近隣では僧職との関係を知っていて怪悔の声をあげる場合もみられ、この点、宗教団体関係者は、伝道と信徒の世話が目的である限り、自己の限界も心得てもらいたいものである。（諸教系教団にもこの例が見られた）。なお、仏教系では、

農山村寺院に、流出する檀徒対策に絶望の声をあげる所が多くみられた。実情は予想以上に深刻とみうけられる。

最後の「意見欄」では、われわれの予想以上に意見提出が多く、（四十・四十一両年度で、回答団体のほぼ四割が何らかの意見を出している）、それを集約的にまとめると次のようになる。

- ① 農山村、もしくは地方の宗教団体  
 (イ)人口流出の被害、教職者の老年化など社会変動の影響を訴えるもの多し。(ロ)流出する信徒との再接触や、残された人口との新しい接触のため、事業利用を望む者も多いが、資金不足と、教団の指導不足を訴えるものが大半。(ハ)諸官庁（特に府県）の、法人事務などに対する指導を求める事が大きい。

② 都市の宗教団体  
 (イ)幼稚園・保育所に関し、社会福祉法人や学校法人と同様の取り扱いを望むものが多い。(ロ)事業利用の希望は高く、それに関する官庁の研修を望む者（意見記入者の約半教が何らかの形でふれている）が意外と多い。この点、戦前の公認宗教時代の官庁依存傾向が残っているのかと、疑ってかかったほどであるが、今回の地域研修会の成功をみてもわかるように、むしろ、法人側の社会変動や法人経営に対する注意が高まったものと見てよいようである。

表1 調査対象宗教法人数

	40年度	41年度	42年度
第1次調査	5,141 法人	4,938 法人	4,068 法人
第2次調査	619 法人	490 法人	未定

表4 系統別にみた多い事業の種類

	40年、41年両年度集計から、系統別事業の10%以上のもの
神社神道	老人クラブ、結婚式場、会館、貸家・貸間・貸地、林業、婦人活動
教派神道	結婚式場、農業
仏教	
(天台系)	老人クラブ、農業
(真言系)	老人クラブ、農業
(浄土系)	茶華書道塾、学習塾、婦人活動、幼稚園青少年センター、保育所、老人クラブ各種相談所、葬儀業務、農業、貸家・貸間・貸地
(禅系)	茶華書道塾、婦人活動、保育所、老人クラブ、葬儀業務、農業
(日蓮系)	茶華書道塾、葬儀業務、貸家・貸間・貸地
キリスト教(新教)	幼稚園、保育所

(注)事業数の多い系統のみをとった。

表2 集計状況

	40年	41年
第1次	1 文部省にて、全集計を担当（集計表印刷配布済） 2 内容分析おわり	1 各府県にて府県単位の集計を行い、文部省が全国集計を担当。（集計表の一部を印刷、配布済） 2 内容分析おわり
第2次	1 文部省にて集計（集計表の一部を印刷、配布済） 2 内容分析おわり	1 文部省にて現在集計中（42年10月に終る予定）

表3 調査表回収率

	40年	41年
第1次	65% (94%)	58% (92%)
第2次	76% (96%)	現在集計中

# 里から寺へ

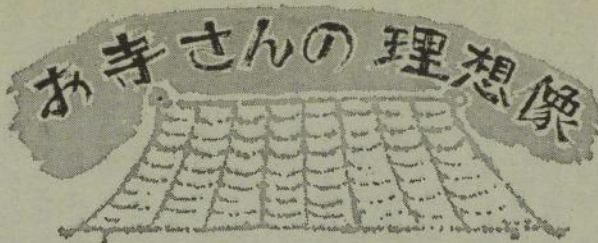
(七)

「里から寺へ」は各方面から好評をうけており、すでに笠原一男博士、加藤弁三郎先生、作家の平林たい子さんとつづけてきました。今回は仏教の篤信家でなくアメリカでキリスト教をふかく研究された和田聖公先生に仏教界の現状を忌憚なく語っていただきました。

聞き手前白

聞き手 伊藤勝淳

(全日本仏教会組織局長)



## 連載在家対談

### 前号からのつづき

精神的な榮養にしても、十日に一回お寺に行つて、それで精神的榮養はつくものではない。やはり朝晩にお参りをする、あるいはお祈りをする修養書・宗教書にふれるという気持を持たなければ、当然精神的な榮養は欠乏していく。やがて精神的榮養失調症になる。だから精神的榮養というものは、結局人間性のささえになるので、その人間性のささえになる榮養がだんだん取られなくなれば、人間性の低下は当然生じてくるであります。

#### 精神的失調症に榮養を

こういうことで、近代の人は、日本人に限らず、どこの国の人でもみな同じで、精神的榮養失調症にかかっているのです。こういう言葉でいっていいかどうかわかりませんが、精神的な榮養、全宗教界、特に日本においては仏教界が率先して人々に施さなければなりません。精神的榮養は超物質であることから現代人がこれを好まなくなってきたのです。それを現代人がよるこんでいただく、観ることも、味うこともできない。だから、こ

のうえない榮養価が高いのだ。人間は、物質的榮養食物と精神的榮養を二つとも欠くことができない。それを二つながら充分に摂取吸収して始めてゆたかな人間性、味の深い人間性を養うことができるのである。このように呼びかけなければならぬのではありませんか？ 特別に仏教は、味の深い、ゆたかな精神的榮養を無限に授けることができるので

とになるのではないかと、わたくしは日頃かく信じてきたのです。  
全仏には政治色が必要  
——いまの日本は、物質と精神のアンバランスからこういうような状態になっていると思っておりますが、いまお聞きしても、アメリカにおきましてもやはりそうである——これは世界的な世相だと思っております——と同時に、精神文化を扱われわれ仏教徒としましては、まずまず使命の重大さを痛感するのですが、さきほど、先生が、いまや既成教団は大同団結してやらなければだめだということをおっしゃいましたが、ご承知のように、日本仏教は、祖師仏教でして、仏教と一口にいいますが、宗派仏教、祖師仏教の概念が非常に強いものですが、今日、全日本仏教会というものが組織されており、外からみますと、なかなか宗派意識が強いのです。しかし宗派意識にこだわっており、仏教の根本精神というものと、仏教徒としての使命というものが、つい忘れがちになってまいりますので、やはり、全仏教の提供によりまます。全一仏教運動ということは今後も進めていくべきだと考えております。この問題に対します先生のお考えと、しからばどうしたら大同団結して仏教運動を推進できるか——非常にむずかしい問題ですが。

更に仏性のめざす等は(人間性のささえになるはたらき)各派の立場から説いて下さるでなければならぬ。それが全仏教の説かなければならない思想・教理(哲理)でありましょう。また、仏性がめざめなければ人間性はだんだん低下する。しかもこれは、一年に一日、若しくは一回くらい話を聞いた、十日に一回くらい仏教の話をしたというものはなくて、朝晩朝晩に仏と共にある(日常生活のすべてが)ことにならないと、人間性というものは高くない、あるいは人間性が低下する。こういうこ

和 田 聖 公  
この前、柳(全仏組織部長)先生に申し上げたんですが、結局、全仏ということになりますと、社会はこれをどう見るか、ということなんです。そうすると、わたしは、恐らくは、社会から眺めた全仏には二つの見分けをしておるだらうと思っております。一つは政治色として見ているだらう。一つは単なる各宗派の連

語り手

理学・神学博士

和田聖公

絡機関としての組織の名称としてこれを見るだろう。それで、柳先生にも申し上げたのは、政治色——政党色じゃないですよ——というものが、一体、仏教の中に受け入れられるべきものであるかどうかということが一つ、もう一つは、内部が大同団結するのは、何にか一つのものをあげなくちゃなりません。この前は、聖道門と浄土門ということをおっしゃっておられました。そうなりまして、かえって内部で二つの潮流があらわれるのです。そうでなくて、全仏ということになれば、やはり、一つの思想統一というものが必要なんで、そこでは各教派の教理には直接ふれないでかかげるものが必要であります。各教派が納得するもの、而して社会も肯定せざるを得ないもの、全仏の指導原理が、そこに高くかかげられなければなりません。じゃあどういうふうにやれるかとお聞きになったら、つまり、社会に向かって全仏が説くとすれば、これは人間として失ってはならないもの、人間性（慈悲心・般若智のみ）が人間を決定づけるのである。人間性が低下をきたしたら個人の生活も社会の生活も人間そのものの生存が危機に瀕する。現代は正に、その時代である。ということ強調しなければならぬ。というと思います。

これならば、どの派でも説かなくちゃならないので、これは日蓮宗の方だから説けないとか、浄土真宗は説けないというのではないと思います。やはり人間性のささえになる仏性の開眼（慈悲心・般若智）をあくまで説いていかなければならないのはありますまいか。

もう一つは、全仏という組織をここに限りまして以上は、好むと好まざるを

問わず政治色というものが無いと、社会が、これを受け入れますまいと思つた。民族愛・祖国愛・全世界人類の平和・自由福祉、これらは政治色といえるではありません。もっとも広義の説明になります宗教の世界にこの要素は入っているのです。全仏の姿勢をそこに置くべきでないでしょうか。こうなったら社会に對しても反響を与えます。社会の指導原理というものが仏教の中にあるのだ。その指導原理ということになりますと、これは、多分に広義の政治色であります。

今度は、政治色をもう一つ深めて、各教派が説きますときには、教派の教理・經典による。そこに到達するのではありますまいか。いずれも釈迦の説かれた教を各派の立場から説くのであります。各教派の經典を通じて人間性の高揚が仏性のめざめにつながる説かなければなりません。だから全仏としては、どうしても広義の政治色をかかげなければ姿勢が明らかにならないのではありますまいか。仮りに、先きほど話した機関誌を月に一回でも二回でも発行するとすれば、結局何にかをかかげるかといえ、人間性の高揚、仏性の開眼、更には全人類の繁栄共存の可能性、これでありましょう。そうすると社会はどうみるか。広義の政治色（生存の根本問題にふれるが故にであります。）としてみてくれるだろうと思つています。好むと好まざるにかかわらず、そういうものが入っていかないと、とてもいまの社会に對して呼びかける声になりますまいと思つています。

そうでないとしたら、単なる、各教団の宗派の連絡機関にしからずきないということになりますから、名称はなかなか立

派だけでも実際の活動は連絡機関の働きしかできないというはなはだ矛盾した状態におちいるのではないかと思つた。ですから全仏が、日本の社会にいま問わなければならないのは何にかということになれば、当然そこには、先きほどから申し述べてきた問題にふれなければなりません。こうなれば社会として全仏をあらためてみなおすと思うのであります。更に各宗派がそれぞれ經典をかかげるのでありますから、これはそれぞれの仏縁にしたがつてさきほどおっしゃった祖師さまのもとで教祖の教理を深めてゆこうとするであります。そうすると、わたしは、全仏というものをここに作りあげた以上、恐らくもう一ついえることは、社会の要請の必然性だろうと思つた。社会の必然性がなかったら、この全仏はできなかったらうと思つた。

必然性というものは、何をもちいていえるか。社会に對して呼びかけますには強大な組織の力を必要とする。もちろん、各教派の組織力に依存するのですが、もう一つ大きな組織力を必要とする各教派は、その背後にもっと大きな組織力を必要とする時期（時代）に直面したのであります。それが社会的必然性であります。そうでなければ、各派がそれぞれの伝統とその教理を持っていますのに、何を好んで大同団結しなければならぬかということでしょう。そうすると、個々の宗派の組織は弱くなった、ということになる——弱くなったというよりも、社会の受け入れる力がそれだけ弱まったということとです。昔は各教派がやれたんです。それは受け入れる社会にそれだけの力があつたんです。ところがいまは、受け入れ

## 宗教法人の運営一切の指針 宗教学者ハンドブック

価七八〇円(千七〇円)

文部省宗務課校閲  
日宗連幹事 滝沢清 著

法の理解と運用上の羅針  
全日本仏教会常務理事 阿部電 伝

法に對する理解とその運用は常に不離一体であつてこそ、法の精神が生かされるのである。滝沢清氏は謂わば日本宗教連盟の育ての親でもあり、宗教法人の運営と指導に意を用いられて来た人だけに、こうした点を心を砕かれて、このたび本著の編さんを公けにされた。全編を四部に分類・整理されて、実に精細に亘つて理解と運用に万全を期されたことは大変な努力で、他に類例を見ないであろう。

宗教法人法が發布されて既に十六余年になるが、実務と運用の点では必ずしも充分とは言えない。

こうした際に法人の立場に立つての滝沢氏が本著を刊行されたことは、全法人の要望に答えられたものと言え、法に對する理解と運用上の羅針として必携されるよう推奨してやまない。

発行所 三 成 書 房  
振替 東京 四一四二番  
東京都中野区南台四ノ三九

る側に力がない。力の弱まったところにカンフル注射を打とうとすれば大きな力を結集せざるを得ない。これが恐らく、全仏という組織が生まれた素因であろうと思うのです。社会の要請の必然性があった。そうでなければ、従来の教派でいいのじゃないか。これはキリスト教もいってあります。

### バチカンと提携

バチカンのいう言葉は、仏教と提携しなければならぬというのです。今日、世界の全宗派と手を握らなければならぬということ、バチカンのあそこのカソリックだけの声でなく、全世界の全宗教界の与論でありましょう。社会の方が受け入れる力が弱まったから、大同団結して大きな力で誘導するより仕方がない。各自の力が弱まったときは、たぐいんの力をそこに結果して支えとならなければ人間性の回復、高揚は期待しがたい。こういうことは、全仏も知っておくべきではないかと思うのです。社会の方が受け入れる力が弱まったから大同団結し、大きな組織の力でいかざるを得なくなつたとすれば、どうしても一宗一派の教えのみに依存するわけにはゆかない。大きな組織の中で各派が充分に共存できる。そこに各派も全仏もめざめてきたのであるかと思ひます。だから各派に納得させるということになると全仏は政治色にならざるを得ない。政治色を全く排除してしまつたらどうということになるだろうか。それは恐らく、各宗派の単なる連絡機関にしかすぎないと思ひます。政治色になれば、各派の納得するところのものをかかげなければなりません。更に受け入れる言葉を用意しなければならぬということになるんじゃないでしょうか。

か。

はなはだ言葉が漠然としましたが、在家の人間としていえることは、政治色をもつていえる言葉ならば、社会はついてくると思ひます。

——先生のお話を伺ひまして大変意を強くしたのですけれども、従来とも、全仏の性格につきましても、全仏は単なる連絡機関でいいのだ、いや、全仏は事業をする団体なんだ、というような、いろんな議論が出て参りますが、しかし、現時点においては、単なる連絡機関であつてはならない。やはり、事業団体として、各宗の集まった一つの総合体としての事業をなすべきだ、というようなことで、現在、全一仏教運動に邁進してあります。それにつきましても、先生は長くアメリカにいらつしやいまして、キリスト教の広報活動につき、日本の仏教界の布教活動をご覧になり、わたくしども自身、こうして立派な教義を持ちながら、広報活動については誰しも満足してあります。——何にか……PRや活動に欠けるものがあるのではないかとわたくしどもは始終考へておりますがいかがでしょうか。

和田 これが、さきほど申し上げた政治力が入っていないのですよ。政治力という、何にか政党とか、特殊な政治意識をもつのかと不安に思われるでしょうが、全仏は、政党の結社でもなければ、また、政党を作る団体でもないわけです。

しかし、社会というものを呼びかけますときには、広義の政治色をかかげて（前に申し述べた様に）全仏という新聞を出そうと企画しますときに、そこにかける言葉というものがありません。そこに社会に訴えるのも、また、全宗派に訴え

ていかなければならぬものをかかげなければならぬでしょう。そのときに何をかかげますか、ということ。これが、一宗一派のものをかかげたら、他宗が文句をいいます。そうすると各宗派が納得するもので、しかも社会が受け入れるものということになると、当然そこに政治色になるのではないだろうかと思ひます。

全仏が、新聞の中にたえず呼びかける言葉として日本人に伝えることは、いま愛国心というものがとても低下しましたね。アメリカでも愛国心を非常に強調しているのです。ことあるごとに、国旗に対して忠誠を誓わせます。それが、今日のアメリカの結果する力になっていきます。日本においても、自分の祖国を愛することはできないのです。まず祖国を愛すること、これを教えなければなりません。同時に民族そのものがお互いに助け合ひ、愛し合ひ、民族の精神内容を高め、ゆくところのものも謳わなければなりません。すまいし、また、世界の全人類が、釈迦の教えた人類愛、平和共存により多く共鳴し且つ平和な世界を、社会を建設してゆく、これが全仏のPRになるのではないかと思ひます。これはバチカンがよくいっておることですが、同様に仏教もいわなければならぬことであります。いわゆる全人類の平和福祉、永遠の繁栄あるいは全人類の精神物質両面の文明社会の建設等、当然宗教界が語らなければならぬ言葉であるかと思ひます。これらの言葉の内容が政治色になるかと思ひます。

——大変ありがとうございます。きょうは、お忙しいところを……。

和田 いえいえ、大変散漫なことで申し訳けないが、社会人として、このごろよく全仏のことを聞かれるんです。全仏とは一体何にかと聞かれるので、これは全仏教の合同した姿だということ、それじゃ、一体社会に何に呼びかけているのかと、ごく最近も十人位の人から質問を受けたのです。そのときにわたしのいったことは、釈迦の教えを、全仏の名で世界に説くのだ、ということ。それじゃ何をいうのかとたまたまかけられたので、わたしは、日本人である限りは自分の祖国というものを愛さなければならぬいし、日本民族というものをお互いに愛し合ひていかなければならない。同時に、お互いの人間性を高めるには、釈迦の説く慈悲心を説かなければいけないのだといった。それだけでは満足できずに突っこんできましたが、どんな宗派でもいわなければならぬことを揚げていかざるを得ないんじゃないでしょうか。そしてそれを一宗一派でなくて、組織の大きな力——それが社会の必然性でありましょう——この様にいへば社会がついてくるのです。そこにわたしたちもが自覚めたんじゃないでしょうか。みんなの力を結果していおうとしてるんじゃないでしょうか。

——わたへしどもの組織局におきましては、組織強化でございますが、しかし全仏として大きな面からみますと、仏教運動の推進に邁進しておるわけですが、今後ともよろしく願ひいたします。

終

# だれでもできる選挙運動

われわれは、選挙というとなんでもかんでも選挙違反になるのではないかとおそれてしまい、自分の支持する候補者も当選させたい、そのために何にか役に立つことをしたいと思いが、どんなことをしたらよいのか、わからない。そこで選挙にはいろいろ規則がありますが、これだけはだれにもできるし、また「違反にならない」というものを簡単に調べてみました。

われわれ個人個人の力はないけれども、でないと思っても、実はこの一人一人の言葉や行ないが、全体の情勢を左右する世論をつくり、一票一票を積みあげた結果となり、自分の支持する候補者を当選させ、その人を通して立派な政治を行なわせることができます。

▼選挙の告示の前は「投票を頼む」というような選挙運動は一切できませんが、投票を頼まない次のようなことは自由でできます。

- (1) 特定の人の社会的、文化的な活動を援助するための後援会をつくることはどんな法律にもふれません。
- (2) 後援会への加入を友人、知人、隣近所や、会社の人々にすすめること。

- (3) 後援会や立候補しようとする人に寄付をすることは自由です。
- (4) 立候補しようとする人について色々話し合いをすることは自由です。
- (5) 候補者を推薦することは個人でも団体でも自由です。
- (6) 推薦した理由やその人の経歴などを、機関紙などに通常の方法でのせたりすることも差し支えありません。
- (7) 各種団体が、立候補予定者の政見を聞くために集会を開くことも自由です。

(注) 但し、団体で推薦会を開く場合は、あらかじめ特定の人を決めて、否応なしに賛成させるようなしきたりはいけない。

▼候補者が立候補の届け出を済ますと次のようなことはだれでも自由にできます。

- (1) 友人や知人等に街や電車の中や浴場等で会ったときに「○○さんにお願ひします」「○○さんが当選するよう是非応援して下さい」というようなことを頼むこと。
- (2) 自分の家や店、会社等を訪ねて来た人に投票や応援を依頼すること。

- (3) 電話で投票や運動を頼むこと。
- (注) これはだれにでもでき、何回でも、またどんな内容の話をしても差し支えない。(選挙運動禁止者を除く)

- (4) 演説会の応援弁士になること。
- (5) 選挙と関係のない町内会、校友会、同窓会、社員会等の会合に出て、司会者等の承諾を得て自分の支持する候補者のために協力を頼むこと。
- (6) 職場の責任者の承諾を得て休憩時間中、たまたまそこに居合せた人に自分の支持する候補者のために挨拶をする

- (7) 選挙運動用ハガキを候補者からもらって、友人や知人宛に投票を頼むこと。
- (8) 選挙運動用ハガキに推薦人や、差出人として名を出すこと。
- (9) 自分の家の中のめだたない場所に「○○氏の当選を祈る」、「○○氏を推薦す」、「○○氏の健康を祈る」等自書して掲示することは差し支えない。

(注) ショーウィンド、アパートの通路、ビルの廊下など、誰から見える場所に貼ることはいけない。


(注) 立会演説会、個人演説会、街頭演説等の会場や場所に、友人や家族等を誘って聞きに行き、自分の支持する候補者に拍手や声援を送ること。

(注) 演説会の妨害になるような行為は処罰されます。

(注) 応援弁士の依頼のための訪問はよい。選挙運動は、いろいろの理由から制限されています。その主なもの次の通り。

- 1 投票を頼むために各戸を訪問して歩くこと。
- 2 候補者の名前を街頭でふれ歩くこと。
- 3 自分の手持のハガキ等で友人等に投票を頼むこと。
- 4 投票をしてもらうため署名を集めること。
- 5 陣中見舞としてお酒等を候補者に贈ること。

感謝の礼拝  
平和な家庭

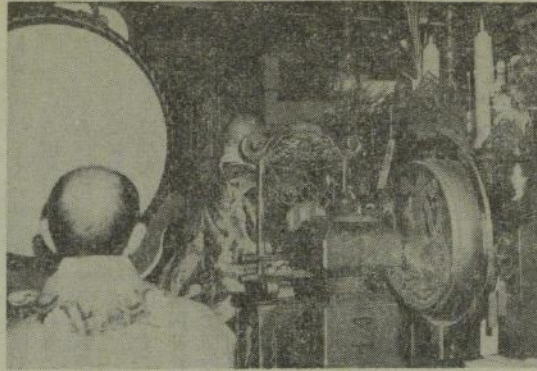


株式会社  
**小堀仏具店**

本店 京都市烏丸通東本願寺前  
電話 37-2195(代表)・37-1256

東京店 台東区西浅草1丁目6番5号  
電話 (843)6961

大谷ご本廟、室内改装  
ご荘厳設計施工の榮に  
浴しました



長野県仏教会では、昨年十月岐阜市で開催された第十五回全日本仏教徒(岐阜)大会の決議により、仏教精神に基づく交通安全「五E運動」を、県内更らには全国的に展開するため、まず、長野県仏教会・長野県仏教青年連盟・長野県仏教婦人会・長野県檀信徒会の四団体が共同で

「長野県仏教交通安全協会」を発足させた。四月九日長野県別所温泉北向観音本堂で、県・県警・長野県交通安全協会等代表者列席のもと祈願法要・発会式が行なわれた。今後県仏教青年連盟が中心に運動が展開される。全仏より伊藤組織局長が出席した。五E運動は次の通り。

一、エンジン(科学技術)

交通安全の第一条件は、日本国民がみな勝れたエンジンであることです。もしも自動車の整備に暗く技術に劣り、エンジンやブレーキの故障も知らずに走ったら大変なことになってしまいます。

二、エチケット(社会道徳)

日本国民が社会道徳を重んじ、仏教徒のエチケットを守り、お互いに合掌しあい、敬いあい、感謝しあい、譲りあう心になれば、交通安全の半ばは達せられるでしょう。

三、エデュケーション(教育文化)

仏陀は人の人たる尊きは、人の心の奥にある仏心にあるととせられました。私達は仏心にめざめた人格教養の高い国民となつて、日本を交通平和の文化国家にしようではありませんか。

四、エフリボデイ(連帯責任)

私たちは自分を愛すると同じに他人を愛する自利利他円満の連帯責任にめざめ、老若男女だれもかれもが交通安全に協力し、お互いに人と生れた尊い生命を守らねばなりません。

五、エフリディー(日日信仰)

今日一日の生命を大切にすることが仏教徒の信仰生活であります。朝には今日一日無事であることを念じ、夕には今日一日無事であることを感謝いたしました。

尚、詳細なことについては、松本市大手五丁目六十一三十六(正行寺内)長野県仏教交通安全協会(電話・松本②五六五三へお問い合わせ下さい。)

歩行者の心得

一 歩道のない道路では、かならず道路の右端を歩きましょう。数人がいっしょに歩くときも横に並んで歩くのはやめましょう。

二 横断は直角に。斜め横断は時間がかかるだけでなく、走る車に背を向けることになって危険です。

三 「横断禁止」の道路標識のあるところでは、横断してはいけません。

四 かならず信号に従って横断しましょう。「進め」の信号の残り時間が少ないと思つたときは、無理をしないで、つぎの「進め」を待ちましょう。

五 踏切の手前では、かならず立ち止まって、列車(電車)がこないかどうか確かめましょう。一方からの列車が通過しても、すぐ反対方向からの列車が近づいていることがありますから、十分注意しましょう。

六 つぎのようなことは、やめましょう

- (1) 酒に酔つて、道路上をふらつくこと
- (2) 道路上に立ち止まったり、すわたり、ねそべったりすること。
- (3) 道路に向けて物を投げたり、発射したりすること。

七 これから運転する人に酒をすすめたり、無免許の人に運転を頼んだり、運転する人に先を急がせてむやみに速度を出させるようなことなど、運転者が違反になるようなことをしてはいけません。

最近、各寺院でも車をもつところが多くなつてきた。一般の人々の先きに立ち、交通法規・道徳を守り、自から範とならなければならない。

— 御贈答に!! 記念品に!! 布教用に!! —

- ◎全国観光温泉地1泊旅行に御招待  
又は豪華なお品を御贈呈(輸入商品1口5万円毎)洩れなく
- ◎日用文化用品を5品御贈呈(輸入商品1口3万円毎)洩れなく

弊社取扱商品(印度・セイロン製)直輸入品

線香・白壇(香・製品)・沈香・民芸品(木彫・象牙・真鍮・其ノ他)等

お問合せは  
全国総発売元



{法衣・莊嚴・仏具} 梅金商店  
{贈答用・記念品}

名古屋市中区岩井通り4の2 TEL名古屋<052>241-0901・1920  
協賛 印度大使館・セイロン大使館  
指定推薦 全日本仏教会・輸入元 かたばみ商事貿易部

◆詳細は御一報下さればカタログを御送附します

# 声 明

かねて、自由民主党より宗教法人靖国神社に関して国家護持を目的とする「靖国神社法案」について意見を求められたので財団法人全日本仏教会は慎重に審議を重ねた結果、国民感情として戦歿者及び国事に殉じた者に対して国家が之を慰めその施設を護持する意図は充分に諒とされるが、この法案は靖国神社の創建の精神を失わせ、且、憲法第二十条及び第八十九条に規定されている信教の自由と政教分離の精神に大きくもとるものであり、宗教法人法が保証する宗教法人の權益を著しく侵害するものとして反対の意を表明する。

戦歿者及び国事に殉じた者に対する国民の感謝と尊敬の念を表する霊場としての宗教法人靖国神社を、非宗教の場に置きかえる事は、公の財産使途を急いで宗教軽視の風潮を国家が奨励する事となり、国民を無宗教の場に追いつむ結果となることを恐れるものである。

加えて、この法案の付則第八条によると宗教法人靖国神社の宗教法人格を一方的な政治権力によって変更することになり、このことは全宗教法人の権利にも重大な侵害となるおそれがある。

財団法人全日本仏教会は日本国憲法ならびに宗教法人法を尊重する故に、この法案に強く反対の意を表明する。

昭和四十三年四月六日

財団法人全日本仏教会

## 世界仏教高等教育者会議に 奈良康明師出席

第八回世界仏教徒大会において決議された、世界仏教高等教育者会議の第一回会議が、来る五月六日より十日迄の五日間、バンコックにおいて開催されることとなり、全仏の依頼により駒沢大学助教授奈良康明師が出席することとなった。

招聘され一年間同大学で講義することとなり、去る四月十一日羽田を出発した。バンコックの会議にはカルカッタより出席する予定。

## 千葉県仏定期役員総会

千葉県仏教会（理事長熊野竜夫師）では、四月二十三日十時より成田山新勝寺第二信徒会館

で定期役員総会を開催し、昭和四十二年度事務・決算報告、昭和四十三年度事業計画・予算等について協議した。尚、全仏柳組織部長より、全仏の事業につき協力方依頼、千葉県総務課長、県宗連理事長の挨拶があった。

## 全国都道府県仏教会 代表者会議 東本願寺で開催

全仏組織局では、昨年度末開催予定であった全国都道府県仏教会代表者会議を五月二十日京都東本願寺で開催することになった。日程の概要は、十時三十分受付開始、十一時より開会し十八時終了の予定である。

## 全仏常務理事会開催

去る四月六日午後一時より、常務理事会が京都西本願寺において開催され、来馬理事長、豊原、訓覇、上野、小野塚、竹内杉谷（代山田）の各常務理事が出席、事務総局の稲田総長、日野、伊藤、熊谷の各局長、阿部柳各部長、山田主事、関西事務局長、小原主事が出席、一、日本万国博覧会について協議した結果、全仏として施設参加の態度を決定、総額五千万円程度の規模で内容を検討することとなった。又、靖国神社法要については、別項の声明文を決定し、全仏に求められた意見に対する回答とした。更に参議院議員選挙対策について検討した

が、従来の推せん方式に、せん衝基準を設け、早急に委員会を開いて推進することを決定した。なお同日三時より開催された全国宗務総長会議は、本願寺派、大谷派、天台宗、真言宗、融通念仏宗、妙見宗、時宗、滅照寺派、仏光寺派、妙心寺派、御室派、豊山派、智山派、新義真言宗等の代表者が出席、日本万国博覧会に対する全仏の態度について協議し、常務理事会に決定したことについて了承、特に費用の分担についても一応昭和四十四年度上半期に完納するなどの線を打ち出したが、近く理事会、万博対策委員会と細部に涉って検討されることとなる。

朝倉曉瑞師（浄土真宗本願寺派元総長、旧京都女子高等専門

学校長）

三月二十八日午前十一時五十分、老衰のため、福井県鯖江市西袋十五号の七、本定寺で死去。九十才。師は東大文学部卒業後、昭和四年五月から仏教主義女子校の名門、現京都女子大学の前身である京都女子高等専門学校長に就任。その後、第二回世界仏教徒会議の事務総長として仏教界に多大の貢献があった。

尚、本葬は四月七日午後一時から福井西別院で本願寺派の宗門葬として営まれた。

野依秀市氏（世界仏教協会々長）三月三十一日東京女子医大で脳出血のため死去。八十二才。氏は「世界仏教」「女性仏教」等を発行し、仏教界に多大の貢献があった。



## 寺のお紙表

浄土真宗本願寺派善通寺の本堂である。東京都江戸川区の荒川放水路の側に



の部分は経蔵として着々と整備され、内部は電化され、又、採光を考慮する等、時代の要求に答えて明るく設計されている。昔からの伝統と現在の建築用式とが美しく調和されているのはすばらしい。室内の音響効果も良く、読経等、音楽的に一点に集中するよう設計されている。

本堂は、昭和三十六年に完成されたもので、純インド形式が採用され、付近の住宅の過密化から耐震耐火という事に細心の注意がはらわれている。本堂上層部